外国人の日本庭園観に関する比較研究

鈴木 誠*
田崎 和裕**
進 士 五 十 八*

A Comparative Study on the Image of Japanese Garden in Foreigners' Mind

Makoto SUZUKI
Kazuhiro TAZAKI
Isoya SHINJI

摘要：外国人と日本人の日本庭園観について、SD法により調査し、 χ^2 検定、因子分析を用いて分析考察した。被験者数は外国人140名、日本人155名。調査庭園は平安神宮（3ヶ所）、二条城二之丸、金地院、龍安寺、天龍寺の5庭園7ヶ所。結論として外国人が日本庭園に明彩感・躍動感を感じているのに対し、日本人が「渋味」「わび・さび」に通じる、陰影感・静寂感を感じている等が実証でき、今までの通説を科学的に裏づけた。

1. 緒言

文献を研究材料とした外国人の日本庭園観に関する研究は佐藤¹⁾、針ヶ谷²⁾、内山³⁾、井手⁴⁾、横山⁵⁾などの論文や、これらに他の文献も加えた総合的考察⁶⁾もあり、外国人が日本庭園をどの様に理解し、どう評価しているかが知れる。これらの論文、その他外国人の著した書物などから、彼らの日本庭園の理解には、二つの方法があることがわかる。一つは彼らが直接訪ねた日本庭園の印象を記述、あるいは分析記述したもの。もう一つは、日本人が説明する日本庭園像を間接的に著作を通じて、あるいは直接聞くことにより説明を受け、それをもとにして「日本庭園とは…」といった記述へと展開しているものである。

さて、外国人の日本庭園観とは通常彼らの日本庭園に対する理解の仕方をいい、これはいわば理性による日本庭園の解釈といえる。それに対して、本研究の対象としているのは外国人の日本庭園に対する感じ方、即ち感性による日本庭園の味わい方である。今まで、外国人には日本庭園を理解することはできない、理解することは難しい、といった記述がよくあった。また、外国人には日本庭園のもつ「渋味」、「わび・さび」は理解できない、ということもよく耳にする。その根拠として、日本庭園の背景をなす日本の風土、文化、歴史等をふまえた理解が不可欠だから等があげられてきた。こうした「外国人にはやはり日本庭園の理解はできない、それはやはり外国人だからだ。」といった風の議論が多いことに対し、これらのことを一体どの様に科学的に判断すべきか明ら

かにすべきである。そこで本研究では、実証的に外国人と日本人では同じ庭園を前にした時、それぞれどのような感じ方をして、どのような庭園像をいただき、それにどう違いがあるのか、イメージ調査という事実を通して分析しようとした。

2. SD法による外国人の日本庭園観の調査

(1) 調査の方法

外国人が日本庭園に対していただくイメージを言葉によって調査することは、言葉自体のニュアンスの違いから、外国語とそれを訳した日本語との対応がうまく整合するかという問題、またイメージの調査自体がその方法に多くバリエーションがないことから、アメリカで英語にて開発されその方法論が一般化している Semantic Differential Method (SD法)を採用することとした。

SD調査票の設計は W. Michelson⁷⁾ の環境デザインに関する記述ならびに、今までに我々が造園空間における調査に用いた評価尺度を参考として、本調査に適すると思われる20形容詞対を選定し、7段階に評価する尺度を構成した。そしてこれを英語、日本語それぞれ同じ意味となるような2つの調査票として作成した。

この調査票を用い、京都市内の平安神宮、二条城二之丸、金地院、龍安寺、天龍寺の5庭園、7カ所において来園者対象の調査を1986年11月7～15日にかけて実施し、外国人140名、日本人155名のデータを回収した。調査庭園(場所)名、実際に得られた有効回答数、被験者の国籍・属性は表-1のとおりである。

*東京農業大学造園学科 **住友林業緑化(株)

(2) 評定尺度による外国人と日本人の感じ方の違い

分析は、まず20カ国の国籍をもつ外国人のグループと日本人のグループの回答の比較から実施した。方法は、各評定尺度7段階のどの段階に被験者がチェックしたか、その数をもとに、2グループ間を比較した χ^2 検定結果(表2)と、各評定尺度ごとの平均を求めて作成したイメージ・プロファイルの比較検討による。

まず、全評定尺度7段階ごとの累計値をもとに、外国人と日本人の評価回答の差を調べたところ、全ての庭園の評価に差が認められた。即ち、この評定用紙では外国人と日本人の間で日本庭園の評価、感じ方に明らかに差があることが判明した。

両者の間で調査対象である日本庭園に対する感じ方の差が、特に著しかった評定尺度は4つ、逆に差のないものが3つあった。以下それらについて考察を加える。

①「派手な―地味な」という形容詞対による評価では、全ての庭園において違いが認められたが、英語標記で「Colorful―Drab」を用いたことにより、日本語の「派手」と「カラフル」との間のニュアンスの違いと同様な違いがでてしまったきらいがある。しかし、派手な色使いをしている庭園ばかりではないのに、この結果が得られたことから以下の分析に含めることとした。結果として、外国人では全ての庭園で「Colorful」という方向に評価が偏るのに対して、日本人は全ての庭園につ

いて「地味な」という方向に評価しその差が大きかった。

②「対称的な―非対称的な」は平安神宮C(東神苑栖鳳池の北側より南側方向を望む)、二条城二之丸庭園、龍安寺方丈庭園、金地院方丈庭園の4ヶ所で差があった。但し、日本人被験者の約1割から質問があり「対称的」を「〇〇と対照的」と勘違いしたケースが多く、考察から除くこととした。

③「動的な―静的な」は平安神宮B(橋殿泰平閣から南側を望んだ東神苑)、二条城、龍安寺の3ヶ所で、外国人の感じ方が「動的な」という方向に偏るのに対して、日本人は「静的な」という評価となった。また、金地院で僅かに日本人の方が外国人よりも動的に感じていた他、全ての庭園で外国人の方がより動的に感じていた。

④「陽気な―陰気な」は評定平均値でみると、全庭園外国人、日本人共に「陽気な」という感じをいだいているが、その度合いでは外国人の方がより「陽気な」という評価をしていた。また、二条城、龍安寺、天龍寺では2グループ間に差が認められた。

⑤「自然な―人工的な、かたい―柔かい、荒々しい―繊細な」の3つの形容詞対では、どの庭園の評価においても差が無かった。即ち、これらの形容詞対で表現されるような庭園に対する感じ方では、外国人と日本人との間に違いは認められなかった。また「現代的な―古典的な、親しみやすい―親しみにくい、明るい―暗い、

表1 被験者の数・属性と調査庭園

国 籍	合計	人数	性別	10代	20代	30代	40代	50代以上	不明	平安神宮A	平安神宮B	平安神宮C	二条城二之丸	金地院	龍安寺	天龍寺
日 本	153	153	男67 女86	1 14	20 40	17 7	14 8	14 13	1 4	3 9	5 6	4 1	10 20	18 14	18 25	9 11
アメリカ	136	69	男41 女28	1 1	15 11	5 8	10 3	10 4	1	6 2	2 6	7	11 8	2 1	12 10	1 1
イギリス		12	男5 女7		2 2	1 2	1 2	1 1			1 2	1		1	3 1	1 3
ドイツ		13	男11 女2		2 1	1 1	6 1	2			2	1	3	2	1 1	2 1
フランス		7	男5 女2		1 1	2 1	1 1	1		1				1	3 2	
オーストラリア		6	男5 女1		1	2	1 1	1				2 1			2	1
カナダ		5	男3 女2		1		1	1 1					1 1	1 1	1	
スイス		5	男2 女3		1 2	1		1			2		1 1		1	
その他		19	男13 女6	1	1 1	4	4 4	1 1	2	1	5 1	2	1 1		6 2	

その他：ニュージーランド(3名) / ポーランド、デンマーク、イタリア、イスラエル、インド(以上各2名)
オランダ、ホンコン、スウェーデン、台湾、ユーゴスラビア、ソ連(以上各1名)

良い—悪い，強い—弱い，大きい—小さい，開放的な—閉鎖的な」などについても全体的にみて評価に大きな差はなかった。

以上まとめると，①③④から外国人の方が日本人より日本庭園に対し「派手で，陽気で，動動的な」イメージをいっている。また，空間のもつ「繊細さ，柔らかさ，自然さ」において彼我の日本庭園に対する感じ方に差はみられなかった。

(3) 庭園ごとの外国人と日本人の感じ方の違い

庭園ごとに評価の差をみてみると，それが顕著であったのは二条城二之丸庭園(11尺度に差)，平安神宮B(8

尺度)，龍安寺方丈庭園(6尺度)。逆に差が僅かであったものは平安神宮A(西神苑白虎池南側より対岸を望む，1尺度)，天龍寺庭園(2尺度)，平安神宮C(3尺度)であった。以下各庭園ごとの感じ方の違いについて考察する。

①二条城二之丸庭園は，外国人と日本人の評価，感じ方の差が最も大きかった。外国人はこの庭園に対して，より「好ましく，親しみやすく，美しく，カラフル(派手)で，複雑，陽気で，動動的な，活気のある，大きく，力強い」イメージをいだし，お気に入りでの積極的な評価傾向を示した。評定平均から，日本人もその度合いは低くなる

がプラスの評価をしていた。但し，「動動的—静的」の尺度上では「静的」なイメージをいいていた。

②平安神宮Bは，東神苑の泰平閣から栖鳳池を前にして南方向を望む景色である。外国人は日本人よりもこの景色に対して「良い，明るい，軽い，調和した，開放的な，動動的な，カラフル(派手)な」といったイメージをもっていた。特に，外国人は「動動的で，軽く，カラフル(派手)な」イメージをもつものに対して，日本人は「静的で，重く，地味な」イメージと，反対の評価となった。

③龍安寺方丈庭園に対して，外国人は「現代的，カラフル(派手)，陽気，動動的，軽い」という方向にイメージしていた。特に外国人の「カラフル(派手)で，動動的で，軽い」といったイメージに対し，日本人は「地味で，静的で，重い」といったイメージをもっていた。

④金地院方丈庭園は，外国人がより「好き，複雑，カラフル(派手)」と感じ，特に日本人が「単純で，地味な」感じをもつものに対し，その反対に感じていた。

⑤平安神宮Cは，東神苑の栖鳳池の北側より泰平閣方向を望んだ景色である。外国人の方がより「調和した，カラフル(派手)な」イメージをいいていた。

表2 形容詞対に対する評価に現れた外国人と日本人の庭園観の差

形容詞		庭園名	平安神宮A	平安神宮B	平安神宮C	二条城二之丸	金地院	龍安寺	天龍寺
好き LIKE	きらい DISLIKE					1 ※※※※	1 ※※※※		
現代的な MODERN	古典的な OLD FASHIONED							2.5 ※※	
親しみやすい FRIENDLY	親しみにくい UNFRIENDLY				0.5 ※※※※※				
明るい LIGHT	暗い DARK		5 ※						
良い GOOD	悪い BAD		2.5 ※※						
自然な NATURAL	人工的な ARTIFICIAL								
対称的な SYMMETRICAL	非対称的な ASYMMETRICAL			5 ※	1 ※※	5 ※	2.5 ※※		
単純な SIMPLE	複雑な COMPLEX				5 ※	0.5 ※※※※※			
美しい BEAUTIFUL	醜い UGLY				2.5 ※※				
重い HEAVY	軽い LIGHT		5 ※				0.5 ※※※※※		
強い STRONG	弱い WEAK				5 ※				
大きい LARGE	小さい SMALL				5 ※				
かたい HARD	柔らかい SOFT								
調和した HARMONIOUS	不調和な DISCORDANT		0.5 ※※※※※	2.5 ※※					
開放的な OPEN	閉鎖的な CLOSED		5 ※						
動動的な ACTIVE	静的な PASSIVE		0.5 ※※※※※		0.5 ※※※※※		0.5 ※※※※※		
活気のある LIVELY	活気のない DULL		2.5 ※※※※		0.5 ※※※※※				
派手な COLORFUL	地味な DRAB	0.5 ※※※※※	0.5 ※※※※※	2.5 ※※	0.5 ※※※※※	1 ※※※※	0.5 ※※※※	0.5 ※※※※	
荒々しい ROUGH	繊細な DELICATE								
陽気な CHEERFUL	陰気な GLOOMY				5 ※		1 ※※※※	2.5 ※※※	
全形容詞対合計の χ^2 値			27.53 ※※※※※	63.93 ※※※※※	38.87 ※※※※※	105.12 ※※※※※	36.34 ※※※※※	50.11 ※※※※※	46.62 ※※※※※

注) 7段階の評価尺度上の記入数を外国人と日本人の2グループ間で各形容詞ごとに χ^2 検定を実施した。表中の数字は差の認められたものの有意水準(%)を表す。自由度6、有意水準0.5%の χ^2 値は18.55

⑥天龍寺庭園では、外国人の方がより「陽気で、カラフル（派手）な」イメージをいだいていた。

⑦平安神宮Aは西神苑であるが外国人が「カラフル（派手）」に感じ、日本人が「地味」に感じる他は際立つ差はみられなかった。

以上をまとめると、外国人は日本庭園に対して「派手（カラフル）で、動きがあり、軽い」といったイメージをもつのに対し、日本人は「地味で、静かで、重い」といった、いわゆる「渋味」「わび・さび」に通じる内容に近い感覚をいだいているのがわかった。特にその典型が、世界的に有名な代表的日本庭園である、龍安寺方丈庭園を対象としたイメージ調査の分析結果に現れた。

（4）国籍別被験者の庭園に対する感じ方の違い

被験者の数から、国籍別で有意の差が認められる庭園は、アメリカ人の平安神宮ABC、二条城二之丸、龍安寺と、参考的にフランス人の龍安寺（5名）であった。この被験者の回答を前述の(2)と同じ分析をした結果、アメリカ人の評価した3庭園5カ所に差がでたが、龍安寺を対象としたフランス人と日本人との評価では全体的に差がなく、この庭園に関してはフランス人と日本人がほぼ同様な感じ方をしていた。以下、庭園ごとに記す。

①二条城は13の尺度でアメリカ人と日本人に差があり、(3)－①に外国人全体の傾向として示した10尺度に加え、アメリカ人は「自然、軽い、開放的」といったイメージもいだいていた。逆に「単純－複雑」では、差はなかった。

②龍安寺ではアメリカ人が(3)－③の外国人全体の傾向に加え、より「明るく、荒々しい」といったイメージももっていた。評定全体ではフランス人と日本人の差はないが、個々の尺度では(3)－③にあげた以外に差があり、より「現代的、軽く、活気のない」方向に感じていた。

③平安神宮Bについてはアメリカ人が日本人よりも「調和した、静的な」イメージをいだいていた。

④平安神宮Cはアメリカ人が日本人よりも「カラフル（派手）な、陽気な」イメージをいだいていた。

⑤平安神宮Aは(3)－⑦の全体の結果と同じであった。

全体的に調査データに占めるアメリカ人の割合が多かったので、今回の調査結果にアメリカ人の意識が強くでているのがわかる。フランス人と日本人との感じ方は似ているのかどうか、などの検証を含め、国籍別の調査は今後の課題である。また、性別、年齢別の分析で外国人の老年層と日本人の青少年層の感じ方が似ており、逆に外国人の青年層と日本人の老年層の感じ方が似ているなどの傾向がみられたが、サンプル数の多少の問題もあり、さらに細かい属性別の日本庭園に対するイメージの検討については今後の課題としたい。

3. 因子分析による庭園観の考察

表3 評定尺度と因子負荷量

評定尺度	因子負荷量		
	第1因子	第2因子	第3因子
派手な	0.878	0.347	0.082
良い	0.874	0.288	0.099
動的な	0.851	0.112	0.151
すき	0.849	0.034	0.147
明るい	0.733	0.139	0.251
美しい	0.714	0.073	0.022
開放的な	0.601	0.014	0.385
自然な	0.561	0.205	0.093
かたい	0.158	0.891	0.191
荒々しい	0.036	0.733	0.365
陽気な	0.560	0.599	0.173
単純な	0.159	0.021	0.879
現代的な	0.368	0.015	0.772
強い	0.531	0.435	0.540
因子寄与	5.483	2.174	2.141

SD調査データの外国人と日本人、それぞれ7カ所ずつ合計14サンプルの評定平均値を基に因子分析をした。その際、相互に相関の高い評定尺度の中から6尺度をはずし、14尺度に数を落として分析可能なデータを構築した。尺度の取捨方法は個人データをサンプルとした予備的因子分析による尺度間の関係の把握（相関係数利用）と、的確な評定ができなかった「対称的－」の除去による。割愛した尺度は「親しみやすい－、重い－、大きい－、調和した－、活気のある－」である。

因子分析の結果は表3のとおりである。

第1因子は「良い－悪い、すき－きらい、美しい－醜い、自然な－人工的な」といった純粋に庭園の評価性に関わる形容詞対と、「派手な－地味な、動的な－静的な、明るい－暗い、開放的な－閉鎖的な」といった明彩感や躍動感をイメージさせる形容詞対から構成されている。第2因子は空間のもつテクスチャ感、雰囲気といった内容を表す形容詞対で代表されている。第3因子は空間のもつデザイン感に最も近い内容のようである。この3つの軸で構成される3次元空間上に、各サンプルを因子得点にもとづき布置したものが図1である。これらをもとに以下の考察を加えた。

第1因子軸上では外国人と日本人のサンプルが原点を境にほぼ対称の位置を占める。即ち外国人が日本庭園に対して「派手で、明るく、動的」といった明彩感・躍動感をイメージするのに対して、日本人は「地味で、暗く、静的」といった陰影感・静寂感をイメージしている。また、各庭園に対する外国人、日本人のサンプル位置が原点を境にほぼ対称形をなすことから、庭園相互の相対的

図1 因子空間のサンプル散布図

なイメージ構造に彼我の顕著な差がないということがいえよう。個別の庭園でこのほぼ対称形の布置を乱している龍安寺と平安神宮Cは、前者が有名な禅寺の枯山水庭園という先入観から外国人の評価が静寂感を含む方向に傾いたのではないかとわれ、後者については水面が景の大部分を占め古風な泰平閣が主景となることから、日本人の評価がより静寂感の強い方向に偏ったのではないと思われる。

第2因子軸上では、外国人・日本人共に平安神宮ABCに対して「柔らかく、繊細な」イメージとなり、逆に二条城、龍安寺、金地院では「かたく、荒々しい」イメージとなる。そして天龍寺では外国人が前者のグループに、日本人が後者のグループに入ることが原点を境に明確となる。先の χ^2 検定による差の確認でもこれらに違いはなかった。そこでそれぞれの空間のテクスチャ感、雰囲気感を支配している要因を考えると、前者は水辺景観優位の空間、後者は石組景観優位の空間である。天龍寺については外国人は池を中心とした水景を主として感じとり、日本人はその周囲の石組などを感じながらイメージ

したのではない。また、上記のような二つの優位性をもった空間に対する感じ方の度合いは、この軸上における日本人サンプルの位置が全て原点寄り、外国人の方が両極に別れることから、外国人の方が日本人よりも空間のテクスチャ感や雰囲気といったものにより敏感であり、それを外に表現する（この場合は評定尺度上）ということができよう。

第3因子軸上のデザイン感ともいえる「単純、現代的」といったイメージは、外国人の平安神宮Aで強く現れた。続いて、龍安寺に対する外国人・日本人のイメージ、金地院、平安神宮Aの日本人のイメージがこの方向に傾いていた。その他の場所ではほぼおなじ割合でやや「複雑、古典的」といったイメージとなった。実際の景観構成は、平安神宮Aでは前景に池面、すぐ向こう岸のしがらみ護岸とそれを縁取るようなサツキの刈り込みが、明確なラインを形作り中央部の石組、背景となる樹木群共にスッキリと明快なものとなっていて、日本庭園の評価というよりこの場の空間構成と、その見えを規定する距離からくるデザイン効果の現れといえよう。龍安寺についても

くるデザイン効果の現れといえよう。龍安寺についても同様、単純な石組と築地、その背景の緑によるデザイン効果がもたらした評価と考察される。

4. 結 言

日本庭園の特徴の一つに「渋味」や「わび・さび」があることはよく言われることで、外国人にはこれがなかなか理解できないというのも大方の認めるところである。このことが事実であることが、本研究より明らかになった。即ち、外国人は日本庭園に対し「派手で、明るく、動的」といった明彩感を感じているのに対し、日本人は「地味で、暗く、静的」といった陰影感、静寂感を感じており、これが「渋味」の表現となる具体的イメージを形成していると考えられるからである。

また、水景優位の庭園景観、石組優位の庭園景観の「柔らかさ、繊細さ」といった場の雰囲気に対し、両者がほぼ同様な感じ方をしているながらも、外国人が水景に注意を払うのに対し、日本人は石組により注意を払う傾向があること等が主要な結論である。

ところでやはりよく聞くことに、ヨーロッパの人々には日本庭園が比較的良好に理解されるが、アメリカ人はぜんぜんだめである、といったことがある。本調査研究ではフランス人がその傾向を示したが、検証の余地を残している。また、日本人の青少年と外国人の老年層が似た感じ方をし、逆に外国人の青年層と日本人の老年層が似かよう傾向もあった。これも就学旅行の物見遊山の日本人若年層と、お金と時間を得た外国人旅行者が通過的に日本庭園を見学するのに対し、外国人の青年たちの多く

が日本に魅力を感じ、よく下調べをして日本庭園などにも足を向けること、日本人の年配者も庭園の鑑賞を目的に京都を訪れること、と理解すると妥当な結果と思えるが、やはり今回の調査からは断定するには至っていない。この他にも、全体的あるいは個別的な知見がいくつか得られたが、調査精度の問題などからその検証等は今後の課題としたい。

最後に、分析等に協力してくれた庭園学・造園学原論研究室の室員諸君に謝意を表したい。

文 献

- 1) 佐藤昌(1933): 外国人のみたる日本庭園, 園芸会雑誌, 4(1), 83-106
- 2) 針ヶ谷鐘吉(1935): コンドル博士の日本庭園観, 庭園, 17(1), 7-9
- 3) 内山正雄(1952): タナードの庭園論について, 造園雑誌, 16(2), 9-10
- 4) 井手久登訳, Jellicoe, G. A. 著(1964): ある日本庭園からの反省, 造園雑誌, 28(1), 6-11
- 5) 横山光雄(1968): 西欧造園家のみた日本庭園, 丹羽鼎三記念出版会編, 日本文化としての庭園—様式と本質—, 159-167, 誠文堂新光社
- 6) 進士五十八(1987): 日本庭園の特質, 4-20, 東京農業大学出版会
- 7) Michelson, W. (1975): Behavioral Research Methods in Environmental Design, Dowden Hutchinson & Ross inc.

Summary: The methods taken in this study were Semantic Differential Method, Chi-Square Evaluation and Factor Analysis. 140 SD-data of foreigners and 155 SD-data of Japanese were taken at 7 points in 5 Japanese gardens, which were Heianjingu (3 points), Nijyujyo Ninomaru, Kontiin, Ryoanji, and Tenryuji gardens. Through the research it was pointed out that the foreigners imaged "colorful, bright and lively" feeling on the Japanese gardens, whereas the Japanese imaged "gloomy, dark and quiet" feeling which is considered an important factor in terms of "Shibumi", "Wabi" and "Sabi".